



# 香葉

## 第14号

通算45号

関東学院女子短期大学

香葉会

発行人 山口佳子

代表 横浜市金沢区

六浦東1-50-1

直通・FAX 045-787-0678

E-mail: koyoukai@nifty.com

URL <http://koyokai.shonan.cc>

※各企画の申し込みはFax・Eメール・往復ハガキでお願いします。

### 海上保安庁 羽田航空基地見学

- 日時 11月5日(土) 9:40(時間厳守)
- 集合 整備場駅(東京モノレール)改札
- 定員 20名(先着順)
- 服装 温かく動きやすい服・歩きやすい靴
- 行程 海上保安庁の業務説明(約40分)～格納庫で機体見学(約60分)～周辺散策(約40分)  
※希望者は羽田空港国際線ターミナルへ移動し、昼食・買い物(自由解散)

●メ 切 10月17日(日)

※注意事項とお願い

1. 操縦席に座れるかもしれない為、希望者はスラックス着用をお願いします。
2. 事前に先方にリストを提出します。参加希望者は氏名・性別・勤務先・住所・連絡先(携帯電話番号)をお知らせ下さい。
3. 欠席の時は必ず連絡をお願いします。当日連絡先は申込済の方にのみ後日お知らせします。
4. 10歳以下のお子さんをお連れになるときは年齢をお知らせ下さい。
5. 施設の都合上、直前で中止になることがあり得ることをご承知おきください。



### クリスマス小物づくり講習会

今年はクリスマスリースを作ります。

誰でも簡単に作れるものを考え

ています。

- 日時 11月16日(日)
- 場所 香葉会室
- 参加費 1,000円(材料費等)
- 持ち物 エプロン・タオル
- メ 切 11月5日(日)



### 山手西洋館散策〔ガイド 精木 勇(元短大講師)〕

毎年恒例の精木先生のガイドで歩く山手のクリスマスです。今年もシーバスでの夕方のクルーズ(希望者のみ)を予定しています。豪華客船に出逢えるかも?!

- 日時 12月10日(日) (雨天決行)  
13時～16時  
山下公園～横浜駅東口クルーズ  
(16時30分頃乗船予定)

- 集合場所 元町公園バス停前(エリスマン邸前)
- 参加費 1,000円(資料・保険代等)
- メ 切 11月30日(日)



### ビーズ講習会(講師 高石和枝(国4))

今年はXmasブローチを作ります。

季節的にもぴったり♪完成した作品をみなさんで身につけて帰りましょう。

- 日時 10月22日(日)  
13時～16時
- 場所 関内メディアセンター
- 参加費 3,000円
- 持ち物 糸切はさみ、眼鏡(必要な方)
- メ 切 9月24日(日) (先着10名)



(リボンに刺繍)

### 第8回 香葉賞

2016年3月24日(日)、人間環境学部卒業謝恩会の中で香葉賞(賞状・記念品)授与がおこなわれました。

学科によって当日サプライズで知らされる受賞者もいて楽しく盛り上がる時間です。



香葉会のホームページをみてくださいませんか? (<http://koyokai.shonan.cc>)

「香葉会」で検索してみてください。学校の様子や企画のご案内・過去の「香葉」も見ることができます。

### 会長挨拶

山口 佳子(国1回)



昨今、世界の情勢は非常に不安定になっています。今年もフラン

スパリのテロに始まり、途上国にも及びバングラデッシュにおいては、国の発展のために協力するという志をもった日本人たちが、意味もなくその犠牲となりました。教育の必要性かとも考えましたが、高学歴、高所得の人たちが犯人とも伝えられ教育の方向性、価値観をどこに置くかが問われています。

短大改組から十四年「香葉」も十四号を発行することができました。「香葉」に寄せられた卒業生からの文章は澁刺としていて、学び過ぎた「短大」は良かったこと、良くなかったことを含め「青春」であったことが読み取れます。勉学のみではなく短大の持っていた環境すべてを融合して考え感じたことなのではないでしょうか？

ここを踏まえて次の生き方へのステップを力強く踏み出していると感じています。卒業生通信の欄は本当に楽しみで

す。ここで残念なお知らせをしなければなりません。活動してまいりました「香葉会」同窓会ですが、五年後を目途に今後のことを定めていかなければならないと考えております。関東学院女子短期大学同窓会として

の集大成を今年から始めたいのです。そこで卒業生通信を中心にした冊子を作りたいと考えております。短大での思い出、恩師によせて、もっとも作りたいものは活躍している卒業生の姿です。著名な方はいうに及ばず皆卒業してからのそれぞれのドラマを持っています。短大で教鞭をお取りいただいた先生方、ご本人から、また知人からお話をお寄せいただきたいと思います。

戦後、女性が学ぶことが難しかったころから、当然のように学校で学ぶことができるようになりました。とはいえ女性の自立や女性の地位は、まだこれからの課題です。

生き生きと生きていらした卒業生をご紹介しますと思っております。どうぞ原稿をそしてお顔の入りました写真をお寄せください。お待ちしております。

また、今年も楽しい企画を考えております。皆さまのご参加をお待ちしております。どうぞ室の木キャンパスのあります学校へ、また、横浜関内にありますメディアセンターにいらして下さい。

### 林淳三先生のご長寿を祝福する会

成川 勝子(国7回・幼9回)

林淳三先生のご長寿を祝福する会が、二〇一六年三月十三日(日)横浜ロイヤルパークホテルで開催されました。主催は、彰栄学園同窓会です。がせっかく横浜の地で開くのですか



ら、ぜひ、関東学院女子短大香葉会にも、お声をかけたいということでお伝えしました。

快くご賛同をいただきホムページに掲載していただき当日には、山口会長をはじめ、役員の方々が駆けつけてくださいましたことを感謝しております。

水戸光圀公に扮した林先生が、助さん格さんを従えてテーマソングと



ともにご登場されます。開会の辞・彰栄学園同窓会会長挨拶・来賓祝辞(香葉会、山口会長)

林淳三先生のご講演、関

東学院と彰栄学園・両校の創設に関わったのがタッピングご夫妻だったこと、坂田祐先生と石原きく先生は、よき友人であられたことなど歴史的背景を、ふまえてお話くださいました。ビタミンB12の研究については、先生の研究者としての真摯な姿勢と今なおその研究の成果が薬剤として人々の役にたっていることがわかった。(先生ご自身が、実際にそのお薬を飲んで、しびれが治った。)など興味深いお話でした。

葛城さんの乾杯の音頭により、会食と歓談へと移ります。バックミュージックフルート さくら・讚美歌四五二・手話合唱・翼をください・花は咲く・帆船先生ご挨拶・フラワーロード閉会の辞 よきひとと



林先生の著書「関東学院の女子教育」は、香葉会で販売させていただいております。ご連絡下さい。

## 人間共生学部発足にあたり

人間共生学部長 新井 信一

「室の木」の地に通い始めて三十一年目になりました。二〇一六年四月より人間環境学部現代コミュニケーション学と人間環境デザイン学を改組し、人間共生学部コミュニケーション学と共生デザイン学が発足しました。二年前より設置準備室長、この四月より人間共生学部長を務めております。

短期大学で学ばれた皆さんからみますと、人間共生学部は、英文科、国文科、家政科家政専攻および生活文化専攻、経営情報科を源流とします。コミュニケーション学はメディアやグローバル、ビジネス心理の三領域で、共生デザイン学はデザイン構想とデザイン表現の二領域で学びます。二十一世紀の共生社会のニーズに添えていくために、コミュニケーション能力とデザイン力を有機的に連動させて、共生社会を実現できる人材の育成を目指します。そのために、共生という言葉が持つ豊かさを念頭におき、学外との接点を持つプロジェクト科目(三年生)を核にして、多文化共生やコミュニケーションとの共生、企業と社会との共生など、学生一人ひとりの「共生」を意識しながら学ぶことになりました。人間共生学部は二十三名の教員でスタートしました。そのうち、短期大学から在籍している教員は五名(家政科四名、経営情報科一名)と少なくなりましたが、卒業生の皆さんと共に過ごし、学んだ財

産はいまでも受け継いでいます。私にとつては、短期大学に十六年間お世話になり、人間環境学部へ移行して十四年間ですので、今でも短期大学がベースにあると言っても過言ではありません。卒業生の皆さん、ふと懐かしくなりました。是非、「室の木」へお立ち寄りください。今でも私の研究室には在職していた期間の卒業アルバムや卒業研究など保管されています。これを書いていきます。六月は、図書館棟の脇でアガパンサスが花を咲かせる季節です。また晩秋には宣教師館前のイチヨウが黄金に輝きます。短期大学があったキャンパスは学生寮や体育館など、変わってしまった箇所もありますが、建物の大半は以前のままの姿で残っています。母校はいつまでも母校です。卒業生お一人お一人に幸多かれと祈っております。



## 産学連携のルーツは

関東学院です



産学連携のルーツは関東学院大学にあるというのをご存知でしょうか。関東学院大学が、世界に先駆けてプラスチックの工業化

に成功したのは一九六二年のこと。しかもこの技術を広く社会にオープンにしました。普通なら特許を取得して莫大な利益を考えると、むしろ、それをしなかつたのが本間英夫先生です。オープンにしたからこそ、先生たちの技術は日本中の生産現場に広まり、自動車部品の多くが重い金属から軽いプラスチックへ置き換わっていったのです。

自動車の軽量化と燃費向上を促し、日本車の輸出拡大に大きく寄与した関東学院大学発の技術。これが本間先生流の産学連携であり、キリスト教に根ざした「人になれ奉仕せよ」という校訓の具現化でもあります。

二〇一〇年には、横浜市との包括提携を受けて「関東学院大学 材料・表面工学研究所」も開設されました。この研究所は、約四十社に及ぶ会員企業の賛助金で運営されています。

が、それは、特定の企業に利することのない自由でオープンな研究のためとのこと。

「人になれ 奉仕せよ」の精神は、今も脈々と息づいているのです。現在、横浜金沢ハイテクセンター内にある同研究所は、関東学院大学法学部のあった小田原の地に転移予定です。

十月二十九日には関東学院大学ホームカミングデイにおいて本間先生の講演が予定されているそうです。

「関東学院大学 材料・表面工学研究所」のホームページ  
<http://mscenter.kanto-gakuin.ac.jp/>

本間英夫先生プロフィール  
工学博士  
関東学院大学 材料・表面工学研究所所長  
関東学院大学特別荣誉教授

## 訃報



去る平成二十八年三月 関東学院大学人間環境学部人間発達学科名誉教授(旧 女子短期大学幼児教育科) 田山美智子先生

がご逝去されました。謹んでお悔やみを申し上げます。※思い出のある方は香葉会まで原稿をお寄せください。次号でご紹介させていただきます。

### オリープ入試制度が変わりました!

関東学院大学 経営企画運営部 校友担当次長

千葉 敏雄

オリープ入試とは、関東学院大学(以下大学)・関東学院女子短期大学(以下短大)の卒業生の子・孫(父母・祖父母のいずれかが卒業生で、その子・孫にあたる人)を対象とした入試制度です。入学試験は、小論文と面接で選抜し、可否を決定いたします。二〇一六年度入試から、制度を変更し、現行の対象六学部から全学部へ受験が出来ることと共に、合格者は入学金(二十八万円)を免除しました。また、二〇一七年度入試から子女に加え孫も対象となりました。

大学では、ご卒業生のみならず短大で教育を受け、今日短大から改組された大学で、子女・孫が学ぶ教育に共感を抱いていただくことで、卒業生の子・孫を受け入れることが大学の継続的な発展に重要であると認識し、この数年で入試制度の改革に取り組みました。また、卒業生のみならずからも募集学部を全学部対象にして欲しい、子女に加え孫も受験させたい等のご要望を多数いただいたのを受け、二〇一六年度入試から対象学部を全学部とし、合格者は入学金(二十八万円)を免除、二〇一七年度入試から子女だけでなくお孫さんも対象とした入試制度を設定しました。

それに加え、オリープ入試は「チャレンジ・スカラシップ制度」も対象としております。これは、オリープ入試等合格後、入学手続が完了した方を対象としたスカラシップ制度で、二月の一般入試時に実施する選考試験を受験し、成績上位者が「スカラシップ生」として採用されるというものです。採用されれば、初年度の年間授業料を全額免除いたします。

子女・孫に受験させたいとの希望があれば、是非、この制度を利用していただきますようお願い申し上げます。

・出願資格等…前記の内容に加え、学部によって出願条件がありますので、詳細は入試センターへお問い合わせください。  
TEL: 〇四五-七八六-七〇一九

・出願期間…二〇一六年九月八日(木)～九月十四日(水) 必着  
・試験日…二〇一六年九月二十五日(日)

### 日本で唯一の活動、関東学院シエイクスピア英語劇

関東学院大学シエイクスピア英語劇演出主幹  
学校法人関東学院法人事務局調査役 瀬沼 達也



関東学院の美しき伝統となっているシエイクスピア英語劇は、関東学院女子専門学校(関東学院女子短期大学の前身)時代の一九四八(昭和二十三)年に、三春台校地の講堂において上演された『ヴェニスの商人』から始まりました。

この英語劇は、「学校の名物となるものを何か行いたい」との相川高秋校長(当時、元女子短期大学長、大学名誉教授、故人)の願いから生まれた学校行事です。  
一九五六年からは女子短期大学と大学が共催で行うようになりました。一九七三年から四年間筆者は学生(役者)として参加し、一九七七年から現在までは主に演出として学生たちといっしょに演劇創造を継続しています。

二〇〇三年からは、女子短期大学の人間環境学部への改組転換により、大学との共催から大学主催となり現在まで毎年継続して行われてきました。

この英語劇活動は、英文科系学科の授業の一環として継続している同志社女子大学と甲南女子大学を除くと、日本で唯一の稀有な活動となっています。  
現在までに上演した作品は、『ハム

レット』『夏の夜の夢』『ロミオとジュリエット』など全十五戯曲に及びます。これまでに、ドレス・リハーサルを観た女優の栗原小巻さんから賛辞を頂き、ロイヤル・シエイクスピア・カンパニー演出家のジョン・ケアーD氏にビデオ録画公演を観劇の上、公演祝辞を頂き、『シエイクスピア大辞典』編集主幹の荒井良雄先生には数回観劇の上、賛辞を頂いたり、ブリティッシュ・カウンシルが後援して下さったりしました。

本年二〇一六年はシエイクスピア没後四〇〇年のため、シエイクスピア最後の単独執筆のロマンス劇『テンペスト』を取り上げ、記念公演として十二月十日(土)・十一日(日)に神奈川県民共済みらいホールにて上演することになりました。女子短期大学の後身である人間環境学部の学生も参加していますので、ぜひ観劇



ください。詳細は十月下旬に香葉会ホームページ等で告示されます。



### かかりつけ管理栄養士になるために

今泉マユ子 (家39回)



卒業して早いもので二十六年が経ちました。関東学院女子短期大学に入学する時に面接して

下さった先生が山田哲雄先生(現栄養学部長)。そして倉沢新一先生(現栄養学部教授)にも大変お世話になります。短大では栄養士になるための勉強でしたので、自分の興味のあること、好きなことを勉強できる喜びで二年間毎日一番前の席で授業を受けていました。

卒業後は富士通不動産(現富士通リフレ)に栄養士として入社し、毎日一万食以上の富士通の社員食堂の献立を立てておりました。富士通の企業理念が「夢をかたちに」。素晴らしい先輩、上司に恵まれ、私のやりたいことを後押しして下さいましたお蔭で自分の思いを「かたち」にしていく喜びを学びました。毎月長時間の残業をこなしながら管理栄養士を取得することが出来たのも、周りの方々のお蔭です。富士通不動産を結婚退職し病院の管理栄養士になり、その後主人の赴任に伴い中国南京に三年間駐在しました。帰国してからは横浜市保育園で管理栄養士として勤め、保育園に勤めながら様々な資格を取得し、二〇一四年に管理栄養士の会社を起業いたしました。なぜ起業したか…。二〇一一年三月十一日

東日本大震災が起きた時は子供がまだ小さく、すぐに被災地支援に行くことが出来ませんでした。その時に「被災地に行くことは出来なくても自分に出来る事を精一杯やる」と心に決め「知る努力」を続け災害食備蓄の大切さをお伝えする活動を始めました。その後様々な思いがこみ上げ、自分が目指す管理栄養士がはっきり分かり「やりたいことを全てやるには自分で起業するしかない!」との思いで、起業いたしました。かかりつけ医のように「この人がいれば安心、この人に聞いたら何でも答えてくれる」そういう身近な存在でありたいと思

## 卒業生

## 通信

す。今後も栄養、健康、食育、スポーツ栄養、災害食備蓄の大切さをお伝えし、管理栄養士として皆様にとつて「なくてはならない存在」になれるよう頑張ります。

### 「あっちこっち」

河西妃呂美 (家31回)

昨年度、私がお手伝いをしていました認定NPO法人「あっちこっち」が第九回かながわこども・子育て支援大賞の特

別賞を受賞するという、うれしいニュースが飛び込んできました。神奈川県庁での表彰式では、審査員から「質の高い芸術を子どもたちに届ける稀有な活動」といった評価が寄せられました。

この活動をご紹介します。アトで笑顔を!」です。その名前のようにフットワークも軽く「あっちこっち」にお邪魔しています。

認定NPO法人「あっちこっち」の活動は

- \*地域に寄り添う絆カフェ・コンサート
  - \*親子のためのワークショップ
  - \*被災地への音楽を届ける活動
  - \*芸術を通じた国際交流事業
- を四つの柱としています。



私はその中で、介護施設など、外出が難しい方々へ音楽を届ける絆カフェ・コンサート

ト♪や、被災地へ音楽を届ける活動♪のお手伝いをしています。被災地で行っているカフェコンサートのお菓子はボランティアによる手作りです。

被災地に行けなくても、つながることができるといことで、月一回のお菓子作りに参加しています。

ここでは、同じ関東学院女子短期大学卒業で、現在、災害食の普及に大活躍の管理栄養士・今泉マユ子さんとの出会いもありました。同窓ということで、はじめてお会いした時から、和気あいあいとお菓子作りをする事ができました。家政科を卒業したことで、こんなうれしい出来事があつたんですよ!

また、香葉会のイベントにも参加するうちに何かとつながりができ、不思議なご縁と感謝しつつ、毎日を暮らしています。

みなさまにも香葉会や、認定NPO法人「あっちこっち」の活動に興味をもっていただけたらとペンを執ることにいたしました。

どちらもホームページで活動の様子が変わりますので、是非、アクセスしてみてください。

香葉会のみなさまとは、また今年のイベントでお会いできますことを楽しみにペンを置かせていただきました。と思います。



企画報告

生麦事件参考館とビール工場見学

松野トシ子 (英5回)

十月十日数名の方々と最初に生麦事件参考館を訪れました。この参考館はすでに閉館しているということでしたが、旧館長さんが快く当時の珍しいお写真、資料等々見せて戴き、直々に説明して下さいる等余り知り得なかつた事件だけに興味深く又歴史の重みを感じ得た時でもありました。生麦事件を少し紹介します。

「幕末の一八六二年(文久二年)生麦村で薩摩藩士が英国人四名を殺傷した事件。

事件の総てを記するのは困難ですがこの事件の大事な事は、長州と薩摩が手を結び明治維新へと大革命を五年で成し遂げ近代国家を創って今日に至ると云うことです。



生麦事件は近代国家成立のきっかけになったと云うことで歴史的に重要な意味を持つ事件でもあったと云うことです。浅海 武夫 旧館長さんが説明して

下さった事件の件は私の中に重く感じ、次のビール工場へと足を運びました。

広々とした工場内に入ると割合見学者が多く何回かに分れて説明を受けました。

まず、ビール作りの製法へのこだわりと題しまして一番搾りが出来るまで。

(一)素材(たつぷり水を含ませた麦を発芽させ麦芽を作る)

(二)仕込み(糖化、「もろみ」と云う麦のおかゆを作る。麦汁ろ過。煮沸。発酵。貯蔵。ろ過。パッケージング「ガイドブック」より)

製法の説明が終りビールの無料

サービスがありました。搾ってすぐのビールのお味は格別でした。身も心もすっかり満足して帰路につきま

したが、ふっと「うまさの秘密」ガイドブックの中の「生命体と芸術」と云う言葉の意味に捕らわれガイドブックをもう一度読んでみました。生命体は麦、酵母の力。芸術は技術、いわゆる確かな技術の上に感性が必要なのだ。この言葉はビール作り

にだけ必要とされるのではなく、すべての物作りの基本であろうと思いつながら我が家へと向かいました。

ビーズ刺繍

講師 高石 和枝 (国4回)

こんにちは。

年に一回、ビーズ刺繍講習会を香葉会のみな様方と一緒に、楽しい時間を共有しております。



ビーズ刺繍？むずかしそう…と思つて参加された方も、数時間で完成すると、うれしいお声が上がつてきます。

ビーズ刺繍はビーズ・スパングル・ライオンストーン等の素材の組み合わせ次第で、いろいろな作品を作り上げることが出来ます。

今までに、この会ではブローチ・ポーチと、前回はリボンにビーズ刺繍を刺しました。このリボンは後日、それぞれ額の中に入れてたり、バッグに仕立てたりしております。

いつしか先輩、後輩方との交流の場になっていけたらと、また、これからもハンドメイドの魅力をお伝えしたいと思っております。

クリスマス小物づくり講習会に参加して

合言葉は『ゴージャス』!?

木村 明美 (幼8回)

懐かしい金沢八景駅で短大時代からの友人Eさんと待ち合わせたのは、去る十一月十一日、まずは駅の周りの変わり様に二人で驚くことからこの日は始まりました。

あの頃のように大学へは歩いて向かいましたが、一本道なのに、変化した風景に出会うと迷子?のような気分になり…でも本当に迷子になるのはその後でした。校門を過ぎると、なんと、お互いに香葉会室がどこにあるのか知らないことに気づいたのです。教務課の方々にたいへんお世話になり少し遅刻でたどり着きました。

机の上には、松ぼっくりや可愛い小物、色とりどりのリボンや紐がたくさんあって、好きなものを選んで制作開始。リボンを巻いたり木の実をつけるたびに「まあ!ゴージャス!」と皆で連呼しながらの作業は、本当に楽しいひとときでした。時間はあつという間に過ぎ、出来上がった作品を全て机に並べたときは、まさに『ゴージャス』で感動ものでした。昼食は皆さんと懐かしい学食でボリウム満点の定食を食べておなかいっぱいに。身も心も大満足の日となりました。お土産に可愛らしいもみじばふうの実をいただきました。迎えた我が家のクリスマスでは、もみじばふうが側に並んだ『ゴージャス』な飾りがひかっています。



## 「交流会」に参加して

内田 康子(英47回)

会報誌「香葉」を毎年頂く度に、大学の様子はどの様に変わったのかな、と想いを馳せていましたが、中々行く機会を見つけられずにおりました。年齢が高くなり、明日のことは何が起きるか分からない昨今、芳紀時代を過ごした地を訪れようと、思い切って約四十年振りに、金沢八景駅に降りてみることにしました。

十一月二十一日(土)の交流会開催日は、大変暖かな日に恵まれて国道十六号線に沿ってウォーキング。内川橋を左折し、六浦キャンパスを通過し、室の木キャンパスまで、これこれ二十五分位でしょうか。到着すると汗がにじむ程の陽気でした。室の木チャペルが分らずに、スタッフの葛城さんに連絡をしてやっと到着です。お聞きするところでは、短



大は平成十四年の卒業式で閉幕したそうです。それから十三年も経っているのですから、まさしく光陰矢の如しです。現在は大学の人間環境学部として発展中です。

それから立派なパイプオルガンの設置されたチャペルに入場。交流会が始まります。オルガニストの小林ゆかり先生の演奏する響きに厳肅な気持ちになりました。曲名は後で伺いましたら、ヨハン・セバスチャン・バッハの「パストラーレ」とのことでした。

次に声楽家の矢野めぐみ先生の歌唱指導で「里の秋」「もみじ」「ペチカ」「たきび」そして讃美歌を数曲、パイプオルガンの伴奏で歌いました。学生に戻ったようです。和音の響きが何と心地良いことか。音色がお腹に響きました。ぜいたくな時間だったと思います。

その後、パイプオルガンのそばまで出席者全員が歩み寄り、楽器はドイツ製で、音の出る仕組みや各部の名称など教わり、さながらレクチュアコンサートでした。

それから、香葉会室に移動して、お二人の先生と膝を混じえての茶話会。音楽談義に花が咲き、予定の時間を超過する程でした。懐かしく楽しいひと時でした。

学年は違うのですが、初対面のお仲間と、この様に打ち解け合えるのは、改めて同窓生の絆を感じました。温かなお気遣いを下さったスタッフの皆様から感謝致します。

## 山手散策に参加して

津田アヤ子(国2回)

クリスマス時季の山手散策は、久しぶりでした。

短大を卒業して四十七年！仲良しの友人はこれまでも参加していて私も誘われました。

当日、十二月五日(土)は快晴で風もなく冬の空気が少し冷たく感じる最高の日よりでした。集合場所では、始めてお会いする皆さんも和やかに迎えて下さり、不安も緊張も杞憂でした。誘ってくれた友人とも話しながらは楽しい一日でした。

講師の精木勇先生は、ご高齢ながら(すみません)とても若々しく、色々な説明をわかり易く話して下さい、学生時の社会学を楽しむようなひとときでした。

精木先生手作りの「横浜山手洋館24」の面集を頂き、スケッチの素晴らしさに感動でした。今回は建築家J・H・モーガンの手掛けた建物を主に紹介して歩きましょう！と。横浜山手聖公会、ベリリックホール、エリスマン邸、えの木てい、そして外人墓地入口の門にも説明して頂き、私はどこも目がみはる想いで聴きました。港の見える丘公園近くの山手一一番館では、玄関正面の三連のアーチの説明に、やさしく迎える工夫がある事など、印象的でした。季節的にクリスマス飾りがどちらも個性豊かで楽しめたのも嬉しかったです。

思えば、二年間の学生時代でしたが「同窓」という絆で年月を経て

このように親しく話の輪に入れて頂ける有難さと思議に、改めて感謝です。

帰りは、山下公園からシーバスに乗り、海から横浜の夕景を楽しみ、横浜駅での解散でした。

精木先生、そして幹事の皆様方にお世話になりました事、楽しい楽しい一日を本当にありがとうございました。



### 燦葉会 支部総会案内

横浜港南支部 9月16日(金)  
18時30分、伊勢福  
西湘小田原支部 9月24日(土)  
13時、小田原キャンパス  
湘南支部 10月16日(日)  
17時、北鎌倉 鉢の木  
県央支部 11月12日(土)  
18時、上海菜館  
お問い合わせは 燦葉会事務局  
045(784)0310

